

「勤儉」な名古屋人として

私が社長を務める岡谷鋼機は、江戸時代に名古屋で金物商の笹屋としてスタートしてから、鉄鋼を基軸とする商社として現在まで約 350 年の歴史を刻んできました。その信用を大切に引き継ぎながら、時代の変化にも懸命に対応してきました。例えば昔は少なかった海外拠点も、今では 20 カ国のネットワークになりました。1995 年には株式を上場し、同族経営的な体質からの脱皮をめざしてきました。私が社長に就任した 1990 年はまだバブルの余韻が残っていましたが、浮かれることなく儉約に努めながら地道に稼いできました。今にして思えば、やっぱり私も名古屋人なのかな、と(笑)。

会議所の会頭になってまだ半年ですが、実業の世界と行政の世界とのギャップを感じています。実業の世界は結果が数字で出る。突っ走って結果を出すのが実業の世界。行政の場合は壁があって、結果がすぐには見えてこない。実業の世界の私が、どうやってお手伝いできるか悩みながらの半年でもあります。

都市間競争の力ギとなる

次世代産業の育成と観光の広域連携

会議所のテーマは中小企業の振興と地域づくりです。地域づくりの面では、2027 年のリニア開業という時代の大転換期にどう対応するかという重要な局面を迎えています。東京と最短 40 分の距離になるのだから、人とモノの動きが劇的に変化して商圈もビジネスチャンスも拡大します。

しかし一方で東京にパワーを吸収される可能性もあります。便利になればなるほど、放っておけば人もビジネス拠点も東京に集中しかねません。名古屋は「都市力の強化」により、人とモノの動きの劇的な変化を発展のパワーに変えていくことが必要です。

例えば、法人税や地方税を東京に比べ非常に安くする。これも人や企業を吸引する力の一つです。アメリカなんか州によって税金が違います。その影響もあって本社がかなり分散しています。税金のメリットで東京一極集中を防ぐのも有効な方法です。

名古屋は「都市力」を強化し 時代の激変を発展のパワーに



異業種交流展示会「メッセナゴヤ」の会場で

それから、次世代産業の代表ともいえる航空宇宙産業をこの地方で育てること。航空宇宙分野の国際的なビジネス商談会「エアロマート名古屋 2014」が、9 月に日本で初めて名古屋で開催されます。その企画を商工会議所もお手伝いさせていただいています。医療機器なども有望産業ですが、この地域で土台を築いている航空宇宙産業が最も有力じゃないでしょうか。

観光面では広域連携です。地域の魅力的な資源を孤立させずネットワーク化を進める。例えば明治村でも伊勢神宮でも、名古屋から目と鼻の先です。全国あるいは海外から見たら、名古屋圏として情報発信した方が分かりやすいと思うのです。その方が観光地も発展するでしょう。

名駅周辺と他地域の一体的整備を

名古屋市のまちづくりに関して言えば、名古屋駅周辺だけでなく、ほかの地域の活性化にも一体的に取り組むことが今まで以上に大切になります。そうしないと名古屋圏の中で格差が広がり、駅周辺の一極集中になってしまう可能性がある。例えば名古屋駅周辺と栄周辺を一体的に整備する。栄の近辺にも、いいものが残っています。LRT などを活用して名古屋城や大須エリアなど他のエリアとの回遊性を高めていくことを考えてもいい。栄の地下街にレールを設け、電動カートが走れるようにしても面白いですね。

名古屋都市センターのような、まちづくりに関する人や情報の交流拠点で多様な人やグループが自由に意見を出し合えば、さらにいいアイデアも出てくるのではないのでしょうか。



名古屋商工会議所 会頭
岡谷 篤一 さん

おかや とくいち / 1944 年、愛知県に生まれる。慶應義塾大学経済学部卒業。新日本製鐵(現 新日鐵住金)を経て 1975 年に岡谷鋼機入社。1990 年、社長就任。2013 年 11 月、名古屋商工会議所会頭就任。